

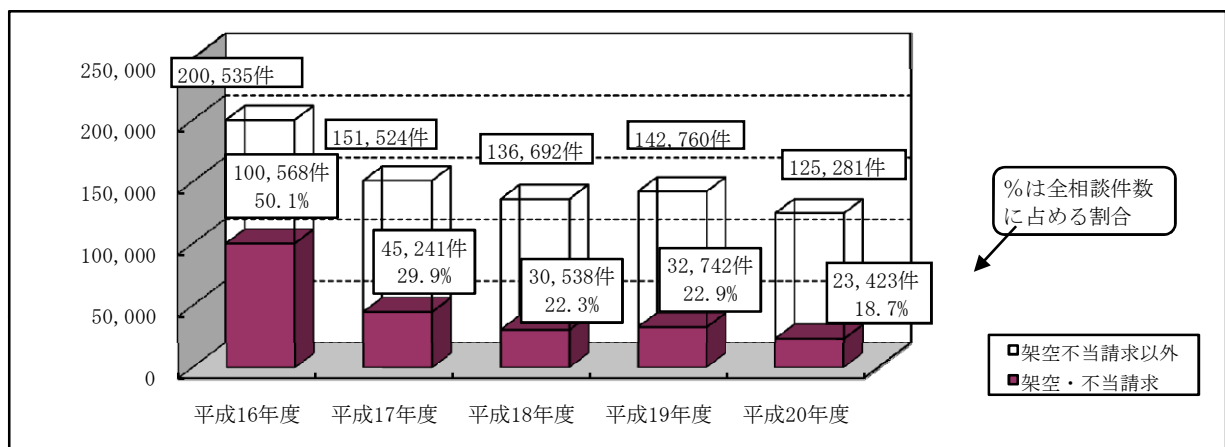
2 主な特徴

(1) 架空・不当請求に関する相談（「平成20年度消費生活相談概要」 56頁～57頁）

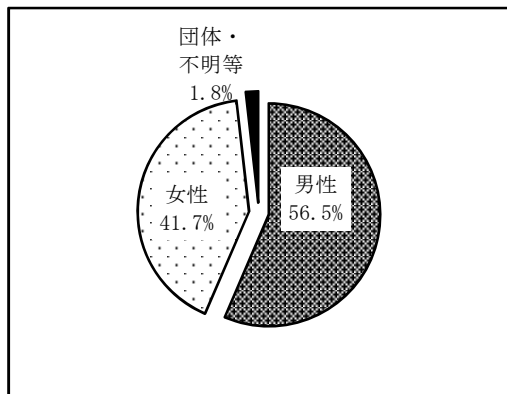
有料サイトの利用料金や、商品を特定しない料金、債権等といった名目の身に覚えのない「架空・不当請求」に関する相談件数は23,423件となり、前年度より28.5%の減少となった。「架空・不当請求」の相談は、平成16年度より年々減少傾向にあり、平成19年度にはいったん増加したものの、20年度に入り再び減少に転じた（図-4）。

「架空・不当請求」に関する相談について、契約当事者の属性をみると、性別では男性の相談が6割弱となっており、前年度と比較すると、男女の割合の差は縮まっている。年代別では「30歳代」が最も多いが、すべての年代から相談が寄せられている。特に、前年度と比較すると相談件数の割合は、60歳代以上の年代で増加し、1割を超えた。（図-5～6／表-3～4）。

【図-4】 架空・不当請求の相談件数推移



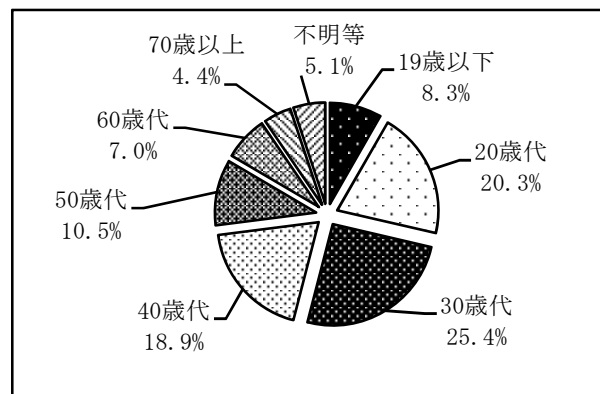
【図-5】 架空・不当請求の相談契約当事者性別割合（平成20年度）



【表-3】 架空・不当請求の相談契約当事者性別件数と割合前年度比較

	平成20年度 (構成比)	平成19年度 (構成比)
男性	13,228 (56.5%)	18,659 (57.0%)
女性	9,774 (41.7%)	13,587 (41.5%)
団体・不明等	421 (1.8%)	496 (1.5%)
計	23,423 (100.0%)	32,742 (100.0%)

【図-6】 架空・不当請求の相談契約当事者年代別割合（平成20年度）



【表-4】 架空・不当請求の相談契約当事者年代別件数と割合前年度比較

	平成20年度 (構成比)	平成19年度 (構成比)
19歳以下	1,946 (8.3%)	2,911 (8.9%)
20歳代	4,758 (20.3%)	7,122 (21.8%)
30歳代	5,949 (25.4%)	8,554 (26.1%)
40歳代	4,435 (18.9%)	6,047 (18.5%)
50歳代	2,466 (10.5%)	3,517 (10.7%)
60歳代	1,643 (7.0%)	1,846 (5.6%)
70歳以上	1,033 (4.4%)	1,128 (3.4%)
不明等	1,193 (5.1%)	1,617 (4.9%)
計	23,423 (100.0%)	32,742 (100.0%)